



# だより

— つながれ ひろがれ —

第167号  
特定非営利活動法人  
環境パートナーシップちば  
TEL : 090-8116-4633  
E-mail : info@kanpachiba.com  
<https://kanpachiba.com/>

## 次世代へつなぐ！持続可能な社会の場づくり

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば  
代表理事 桑波田 和子

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。

会員の皆さまはじめ、多様な方が当会へご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

2026年がスタートし、国内や世界情勢には気がかりなこと多いですが、持続可能な社会に向けて、より一層取り組まなければならないと思います。

昨年を振り返ると、30年間開催してきた「エコメッセちば」は、これまでご支援してきた方々への感謝の一言につきます。会場には親子連れや若者の姿も多く、活動している方々との交流を通して、環境への思い、他者への思いなどにつながっ

ていると実感しました。

当会が受託している「若者が主役の環境保全活動応援事業」では令和7年度受賞団体も決まり、これからの活動に期待が膨らみます。一方、令和5年度6年度の受賞団体が、元気に活動している様子をエコメッセなどで知ることもできました。若者のアイデアとパワーに、皆さまの応援をよろしくお祈りします。

今年もパートナーシップを推進し、次世代へつなぐ場づくり・人づくりに関わっていきたく思います。皆さまのご支援、ご協力よろしくお祈りします。

## 新しい年を迎えて

千葉県環境生活部循環型社会推進課長  
石田 涼

令和8年の新春を迎え、特定非営利法人環境パートナーシップちばの皆さまに おかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。皆様には、日頃から地域の環境保全活動、環境学習、多様な主体との連携など、本県の環境行政の推進にお力添えをいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年の「エコメッセちば」は30回目の節目の実施となり、エコメッセの変遷を振り返るパネル展示等では積み重ねてきた時間の重みを感じることができました。また、若い世代が主体的に取り組んだ体験型ブースなどでは、時代に合った親しみやすい展示が数多く行われており、小さなお子さんも含めて多くの方が楽しんでいらっしゃる様子から、環境保全に対する関心の高まりを感じることができました。様々な主体と共同で取り組む「エコメッセちば」は、県にとっても重要なイベントであり、今後の更なる発展のため、皆様とともに

努めてまいりたいと考えています。

県では、「千葉県環境学習等行動計画」に基づき、持続可能な社会の構築に向けて、あらゆる主体が環境問題を自らの問題として捉え、連携・協働して取り組む「行動する人づくり」を目指しており、「若者が主役の環境保全活動応援事業」などの各種施策に取り組みしております。できるだけ多くの方々に環境問題を「自分ごと」と捉え行動を起こしていただくためには、パートナーシップによる環境活動の推進と充実を目指す皆様との協働・連携が欠かせません。今後ともお力添えを賜りますよう、引き続きよろしくお祈りいたします。

結びに、貴団体の一層の御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

結びに、貴団体の一層の御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。



開催のお知らせ

## 若者応援 ぜひご参加願います！

### 若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト受賞者活動報告会

日時：2026年2月28日（土）13:20～16:10  
会場：千葉県教育会館303会議室・オンライン  
（千葉県千葉市中央区中央4丁目13-10）  
定員：会場 100名 オンライン 500名  
※いずれも先着順  
応募締め切り：2月20日（金）  
主催：千葉県（環境生活部循環型社会推進課）  
受託団体：NPO 法人環境パートナーシップちば  
プログラム

第1部 受賞団体による活動報告

第2部 過年度受賞団体・参加者との意見交換会

令和7年度「若者が主役の環境保全活動応援事業」のアイデアコンテスト（エコメッセちば2025会場にて実施）で受賞した3団体に対し、昨年12月に活動を開始するにあたってスタートアップ会議を実施しました。

スタートアップ会議には、受賞団体を支援する地域の団体、企業、行政等が参加し、受賞者と交流しながら活動内容に対するアドバイス等を行い、本格的な活動が始まりました。

2月28日の活動報告会は、受賞者がこれまでの活動状況と今後について報告し、参加者の皆様か

らのご意見やアドバイス等の支援をいただく機会です。

第1部では下記の令和7年度受賞団体の活動報告を行います。

1位：K.LAB キョンの胃から作る、未来のペットサブリ革命

2位：安房拓心サトウキビ組合 サトウキビの栽培・有効活用

～ FARM TO FUTURE ～ 子どもから大人まで地域で作る新たな産業」

3位：ビーチバ 白里海岸 keep and clean 大作戦

第2部では、令和5年度、6年度の受賞団体の活動紹介と令和7年度受賞団体や参加者との意見交換会を行います。

若い世代の励みにも繋がりますので、ぜひお気軽にご参加ください。

お申込みフォーム

詳細はこちらから



## 「ふなばしエコカレッジ」環境保全活動について

船橋市は、台地から海へ 水・緑・生命と共に暮らすまちを目指し、多様な自然環境（樹林、水田、干潟など）とそこに生きる生物を守るため、「ふなばし生物多様性戦略」を策定し、市民参加型の調査や学習を通じて保全と持続可能な利用に取り組んでいます。

その中で、人と生き物が共生する環境を目指し、市民・事業者・行政と連携して保全活動を行うために「ふなばしエコカレッジ」で生物多様性に関する取り組みのリーダー育成を進めています。

講座は4月開講から12月の修了証授与までに、「環境に関する基礎知識」「生物多様性に関する知識」「生物多様性に関する実体験」「環境保全活動の実施の経験」「環境保全活動を自ら行う心構え」を設けています。当会は11/27の、受講生が今後取り組んでいく環境保全活動について、一人一人が考えグループで話し合いながら、今後の活動の

進むべき道を探る「ワーキング」のファシリテーターを担当させていただきました。

ワーキングの進め方については、市の担当課と数回打ち合わせをしました。市の方では受講生がこれまでの講座を今後の活動へつなぐ前準備を担当してくださいました。

ワーキングは、「海」「生き物観察」「里地・里山」の活動場所などで4グループを作り、話しあった結果を発表し、全員で共有しました。

「生き物を知ることの楽しさを知ると伝えたい」「里山のすばらしさと課題を知ってもらおう」

「Green Up」「調査も発信も必要」などの取り組みが上がりました。これらを受けて、受講生の中から「今回の受講生がつながり活動しましょう！」と、呼びかけがありました。力強い意見で、これからの環境保全活動に期待が膨らみました。

（文責：横山 清美）

## いちほら市民大学【環境コース】環境まちづくりワークショップ

いちほら市民大学環境コースは自然環境の保全、地球温暖化、生物多様性、廃棄物、住環境など様々な環境問題を座学やフィールドワークを通して学び、講座で興味をもった課題を選び、それぞれのグループに分かれて自分ごととして具体化していきます。

環境パートナーシップちばは、「環境コース」のワークショップに11月18日、12月2日の2日間、桑波田、中村、谷口の3人がファシリテーターとして参加しました。

「地球温暖化と省エネ」チームは、家庭で取り組む省エネというテーマで、家庭内での節電により電力使用量を減らそうという行動です。省エネの第1歩は電気使用量を確認し現状を把握することが大切というまとめに納得しました。「ごみとリサイクル」のチームは、ごみと資源物との分別のルールをきちんと知ることがごみの減量化につながる。

そのために分別のノウハウを覚え、勉強会を開催したり、地域のアドバイザーとして活動することを目標にしている、とても良い取り組みだと感じました。「里山や自然環境の保全」チームは、市原の自然を守るための里山活動を広く知ってもらう活動に取り組みたいと思っている方が多かった反面、里山は市街地から距離があるため、移動に車が必要になり、高齢になるに従って参加するのが難しくなるのではといった意見もありました。この講座が環境に対して興味を持ってもらうにはどうしたらよいかを考えるきっかけになればと思います。今年を受講生は12名。去年より人数は少なかったもののどのチームも目標を決めて活発な話し合いができ、実践に繋げてほしいと思いました。

(文責：谷口 路代)

参加報告 関東ESD推進ネットワーク 第9回地域フォーラム in かけがわ  
まちと学びの交差点～人・地域づくりの担い手たちと語ろう～

日時：2026年1月24日(土) 14:00～17:00

会場：・大日本報徳社大講堂(国指定重文)

(静岡県掛川市掛川市)

・オンライン

主催：関東地方ESD活動支援センター、環境省関東地方環境事務所

共催：掛川市、公益社団法人 大日本報徳社  
プログラム

【基調講演1】環境施策・ESDの推進について(環境省関東地方環境事務所長 庄子真憲)

【基調講演2】サステナブルのその先へ だれもが自分らしく暮らし 進化したつづける未来共創都市 かけがわ(掛川市副市長 石川紀子)

【実践事例の共有】

- ・自然体験を通じた人づくり(認定NPO法人時の森クラブ理事長 松浦成夫氏)
- ・農業を通じた人づくり(株式会社エムスクエア・ラボ/やさいバス株式会社代表取締役 加藤百合子氏)
- ・報徳思想を通じた人づくり(公社 大日本報徳社事務局長 青木克之氏)

【ポスターセッション 参加者交流】会場のみ

オンラインで参加し、下記のことを学びました。

基調講演1:

- ①ESDはSDGs実現の不可欠な手段である。
- ②小学生のアンケートから、8割近くが、地球が壊れて温暖化が進むのが気になる。地球環境を守るために自分でできることがあるのは3割。
- ③事業者と学校の連携事例に千葉市おゆみ野南中学校。(本号5ページ参照)

基調講演2:

- ①1979年に全国に先駆けて「生涯学習都市宣言」を行った。
- ②圧倒的に市民力が強い街。
- ③14年間ごみの排出量が少ない全国ランキングトップ3。
- ④公募で選ばれた副市長のパワーのある講演。

実践事例:

- ①廃村になった故郷を整備して、子どもに自然体験を教えたい。
- ②報徳思想は、二宮尊徳の教えで、経済と道徳の調和を表現し、持続可能な社会に通じる。

(文責：桑波田 和子)

# ～ ESD for 2030 学び合いプロジェクト 「雑がみ様を救え！！」に参加して～ DAY2：出前講座 “地球温暖化とごみを考えよう！”

アースドクターふなばし 代表 阿部 利美

関東地方 ESD 活動支援センターでは、ESD for 2030 学び合いプロジェクトを、令和4年度より実施しており、本年度は、公益財団法人古紙再生促

進センターと協力し「雑がみ様を救え！！」プロジェクトに取り組んでいます。プロジェクト概要は以下の通りです。

対象：千葉市立おゆみ野南中学校 1年6クラス・約240名

期間：2025年11月～12月 4日×2時限＝8時限：総合的学習時間8コマ

DAY1：11/10（月）紙とは何か？知る：講義＋体験

DAY2：11/19（火）紙にまつわる課題：講義＋体験

DAY3：12/3（水）課題を解決せよ：グループワーク

DAY4：12/17（水）専門家と一緒に考える：発表＋議論

実施方法：相談室をホストルームとし、オンライン（Zoom）により、6クラスに放映、  
クラス毎に体験・グループワーク・議論を実施

本プロジェクトにおける私の担当は、DAY2での出前講座・講師およびDAY4発表時の専門家の一員としての質疑応答・参加でした。特に、DAY2において、前半に千葉市資源循環部における“千葉市のごみ事情”の話を前提に、後半（約30分）で気候変動と紙のリサイクルとの関係について説明しました。紙の資源物リサイクル化は単なるごみの削減のみではなく、気候変動抑制（気候変動の緩和策）につながっていることを説明しました。Fig.2の内容に沿って、動画・CGを利用し、出来るだけ分かりやすく構成したつもりです。DAY4では、クラス毎の発表に対し、意見交換・質疑応答を行いました。各クラスから「雑がみ回収率を向上させるプラン」について、広報・イベント・スマホアプリ・インセンティブの面で幅広い観点からの発表がありました。

ごみ問題は、最も身近に感じられる課題の一つであり、本プロジェクト活動を通して、生徒達があらためて、ESDの観点から自分ごととしてのアクションにつながり、更に本プロジェクト活動が、中高生向けプログラムの更なる開発・発展へと展開して行くことを期待しています。私事としては、現在、小学生を対象に“地球温暖化とSDGsを考えよう！”の出前授業を多く実施していますが、地球温暖化とごみ（主として、小4対象）について、今般の経験を生かして来年度・出前授業の構成を考えてみたいと思います。



Fig1  
地球温暖化とごみ

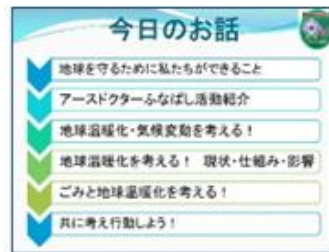


Fig2  
今日のお話

・・・DAY4(12月17日5～6時限目授業)  
に参加して・・・

5時限目は、グループワークで作った課題解決プランの発表(1分)+意見交換5分です。クラスのプランが、かぶらないよう配慮してクラス毎に1プラン発表します。発表者以外は各教室でオンライン参加です。講師の他に千葉市環境総務課、千葉市教育センター、3RのNPO法人などと意見交換会を行いました。これを受けて、6時限目は、グループ毎のプランをブラッシュアップします。作りあげたプランをやる気になる生徒達が実際取り組める場を期待したいと思いつつ、学校を後にしました。  
(環パ広報)

## 千葉市新清掃工場（仮称）を見学しました。

千葉市地球温暖化対策地域協議会で、11月21日（金）開催の千葉市新清掃工場（仮称）（若葉区北谷津町347、北谷津清掃工場用地）を見学するという催しに参加させていただきました。すでに試験運用は始まっていて、来年4月から本格運用する直前の施設見学会でした。

最初に映像で説明を受け、その後館内を見学しました。一番の特徴は「シャフト炉式ガス化溶融炉」。コークスを使用し、投入したごみを高温でガス化・溶融する方法で、残渣をスラグ・メタルに変え、また発電もするという施設です。従来の焼却炉では焼却後の灰を別の場所に運びスラグにするやり方でしたが、それをワンストップでできる。スラグはブロックやタイルなどになり、メタルも再利用されるそうです。発電した電力も公共施設などで利用と、極力、資源やエネルギーを活用する仕組みです。

施設内には見学コースもあり、ごみバンカ、巨大なクレーン、炉、制御室、説明パネルや映像も見ることができます。本格運用後は、小学生の社会

科見学や一般の見学も受け入れる予定だそうです。来年4月からは新港清掃工場（美浜区）が運用中止、リニューアル後、令和13年から運用開始される計画です。

千葉市が「焼却ごみ3分の1削減」を掲げ、焼却施設を3つから2つへ、家庭ごみ手数料徴収制度が始まり、かれこれ10年以上になるのでしょうか。可燃ごみの収集も週3回から2回へ減り、当初は住民の不安や不満がありましたが、ごみ削減への理解や慣れもあり今では“普通”になりました。

「ごみを減らす」は「物を大切にする」の一言に尽きると思います。3Rはもちろん、「品質を見極め愛おしむ」そんな心意気を尊びたいです。

（文責：中村 明子）



## 利根川に学ぶ つながる流域、ひろがる里沼

NPO 法人利根川流域交流会の今年度の活動として12月6日に群馬県館林市において見学会・フォーラムが開催され、会員である横山、桑波田、小倉の3名が参加しました。

館林市は市内に散在する沼のうち、茂林寺沼、多々良沼、城沼についてそれぞれ「祈りの沼」「実りの沼」「守りの沼」と名付けて日本遺産として申請し、令和元年度に文化庁から「里沼」として認定されました。日本遺産とは、単に沼だけではなく、地域の文化的魅力や特色を通じて我が国の文化や伝統を語るストーリーがあって、はじめて認定されるそうです。

午前中の見学会では3つの沼を訪れ、それぞれ地元の方たちの説明を受けました。3つの沼はその愛称のとおり異なる文化や歴史を持っており、それを市民説明員が熱く語ってくださいました。



多々良沼で地元 NPO の方の説明を聞く

午後は館林市文化会館で行われたフォーラムに参加しました。

開会挨拶の後、基調講演は、水ジャーナリスト・武蔵野大学客員教授の橋本淳司さんでした。橋本さんは館林市のご出身で、非常にお忙しい中で、教え子の学生さんたちと一緒に館林市の水環境を良くするためにご尽力くださっています。そんな橋本さんの演題は「館林市の『里沼』－水と人の暮らしをつなぎなおす－」で、いつもながらわかりやすく、でもきちんと想いの伝わるお話でした。話題提供は、国交省渡良瀬川河川事務所の塚原千明さんの「最近の河川行政の取組について」と、館林市「日本遺産」推進協議会の中村豊さんの「日本遺産 館林市の「里沼」について」でした。参加者の「印旛沼も里沼だが、日本遺産にするには「物語」がない。もっと人が近づいて毎日沼と接することが必要」という意見に、本当にその通りだと思いました。

（文責：小倉 久子）

## 佐倉市 自然共生サイト認定記念「生物多様性シンポジウム」

佐倉市では、令和7年9月に「畔田谷津下流域(佐倉里山自然公園内)」が、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」として、自然共生サイトに認定され、令和8年1月18日に佐倉市中央公民館で記念シンポジウムが開催されました。

佐倉市長・市議会議長の開会挨拶では、佐倉市は都市部と自然豊かな地域の境目に位置しており、まさにネイチャーポジティブが重要だと強調されました。

(公財)佐倉緑の基金代表理事の原慶太郎先生の趣旨説明では、生物多様性保全も気候変動対策も1992年のリオサミットから始まったもので、この2つは車の両輪として一緒に考え、進めて聞かなければならない、またサステナビリティとは「まもり・つくり・(次世代に)つなげる」という意味で、この主語は「私たち」であると話されました。そのあと、西田市長が「ネイチャーポジティブ宣言」を高らかに読み上げました。

基調講演は国立環境研の西廣淳先生による「佐倉から広がるネイチャーポジティブ～自然とともに、

人とまちが豊かになる未来～」でした。生物多様性の話はあちこちで聴いていて、一般的な定義などの解説が多く、結局「生物多様性ってなに？」というのはイマイチあいまいだったのですが、西廣先生は身近な例を挙げて具体的に説明してくださり、自分ごととして腑に落ちました。

さらに、佐倉市の中村壮梧さんとワークショップメンバーの美濃和信孝さんから畔田谷津ワークショップと活動について紹介がありました。

このように、非常に内容の濃いシンポジウムでしたが、会場には里山や自然系の仲間がたくさん参

加していて、なつかしい方たちとの再会もできました。(文責：小倉 久子)



## 3R 市民リーダースキルアップ研修に参加して

「3R 市民リーダー」とは、NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット主催で「容器包装の3Rを普及啓発できる市民を育てる」という目標の下、学び活動をしている市民です。そのスキルアップ研修が1月15日(木)にあり、メンバーの私も参加しました。

「3R 推進団体連絡会」という組織は「ガラスびん3R 促進協議会」「PET ボトルリサイクル推進協議会」「紙製容器包装リサイクル推進協議会」「プラスチック容器包装リサイクル推進協議会」「スチール缶リサイクル協会」「アルミ缶リサイクル協会」「飲料用紙容器リサイクル協議会」「ダンボールリサイクル協議会」の8団体で構成されています。名称からも、私たちが日常で使用している商品パッケージの主な材料が見えてきますが、この8団体から、それぞれの3Rについて詳しい説明を受けました。

商品の容器包装即ちパッケージには、内容物の保護や内容の表示、さらにはイメージアップ、また運搬や保管など、様々な役目があります。購入時には内容物だけに注目し、使い終わった後は「ご

みばこ」行きのパッケージ。しかしながらその役目を全うできる所以は、パッケージは実はクオリティーの高い「製品」だからです。

できるだけ少ない材料で無駄を省き、再資源化しやすい設計でデザインされ製造、資源回収、再生品の製造と、Reduce、Recycle を追及。資源もエネルギーも無駄にすることはできません。残念ながら、陳列棚の商品を見ただけでは、その舞台裏を伺い知ることはできません。

市民リーダーはできるだけ知識を深め、誰かに伝える時に少しでも説得力を増せるようにと、研修会に参加することでスキルアップをしています。今回も、様々な最新情報をゲットできました。

(文責：中村 明子)

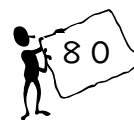


3R 推進団体連絡会が発行しているテキストブック。

ホームページからダウンロードできます。

[R\\_kihon\\_ver5.pdf](https://www.r-kihon.jp/)

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 80 —  
おききました！ この人・この団体



## NPO 法人 水環境研究所設立 20 周年記念シンポジウム NPO 法人 水環境研究所 岩井久美子

特定非営利活動法人環境パートナーシップちばの機関紙「環境パートナーシップちばだより」に当 NPO 法人水環境研究所の紹介の機会をいただきまして、誠に嬉しく光栄に存じます。水環境研究所は会員 23 名の小さな団体ですが、コツコツと地道に湧水調査活動を続けているうちに、気が付いたら昨年秋に設立から 20 周年を迎えることができました。これも日頃より環境保全活動に尽力されている皆様のご支援があってこそと、深く感謝申し上げます。現在、水環境研究所は印旛沼環境基金やちば環境再生基金の助成のもと、千葉県内約 90 箇所の湧水調査のほか硝酸性窒素による地下水汚染とその脱窒に関する調査研究を行っており、その成果をリーフレットや学会、シンポジウム等で公表しています。そのほか、環境イベントへの出展や出前講座への講師派遣などを通して水環境保全の啓発活動を展開しております。

設立 20 周年の節目にあたり、畔田沢堤中谷津における谷津の自然浄化作用についての調査研究が終盤を迎えまともめに入ったのを機に、「谷津はなぜそこにあるのか — 畔田の調査から見える谷津の未来 —」と称し、2025 年 11 月 29 日に設立 20 周年記念シンポジウムを開催致しました。「印旛沼流域を特徴づける谷津と台地が育む水環境の成立ちを知ることで、谷津の機能と恩恵に気付くこと、そして谷津の未来の可能性」をテーマに、当法人の近藤昭彦理事長、岩井久美子理事、梅里之朗理事そして東京情報大学名誉教授原慶太郎氏の 4 名による講演をオンラインにて行いました。

まず、近藤理事長からは「下総台地の地形形成と水循環」と題し、水文地質学的な谷津の成立ちを知ったうえで谷津固有の水環境・水循環という視点で関わる必要性をお話しされました。次に岩井理事からは「谷津の役割とその未来」と題して、8 年間に渡る畔田沢堤中谷津での湿地における水質特性と脱窒機構に関する調査研究の成果

を報告し、谷津の特性に応じた保全の必要性が語られました。さらに梅里之朗理事からは「谷津の水循環と生態系」と題して、長年教育現場に携わってきた経験を基に、子供たちが谷津の自然に触れることの重要性について話をされました。最後に招待講演として原慶太郎氏より専門である景相学の視点から、「谷津のこれまで・今・これから」と題し、AI で作成した過去の谷津の植生を再現し、畔田沢におけるノショウブの事例をもとに、保全活動を継続することで未来に向けた谷津再生の可能性についてお話しされました。

本シンポジウムでは、谷津が抱える課題に普段から向き合っておられる方や環境保全活動団体、行政機関、研究機関など多様な立場の皆様にご参加いただきました。谷津の水循環や自然環境を維持・再生する上で人的な保全・整備が続けていくことが重要であると再認識するとともに、このシンポジウムを通して一人一人がばらばらに動くのではなく一つの同じゴールを目指す皆さんが連携して実践していくことが必要であると改めて考えさせられました。今後とも当法人がこれまでの活動で得た知見を活かし環境保全に貢献できるよう、皆様と手を携えて活動を続けていきたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。



2016. 11. 23 畔田沢堤中谷津 調査風景

## 運営会議報告

### 12 月度運営会議

12月11日(木) 20:00~21:40

会場：オンライン (Zoom)

#### 【報告】

- ・だより 166号発行
- ・若者事業 受賞団体スタートアップ 12/12, 14, 23 報告会 26/2/28
- ・ふなばしエコカレッジ 11/27
- ・いちほら環境市民大学 11/18, 12/2
- ・ESD フォーラム (オンライン参加) 12/7
- ・食品ロス削減推進サポーター フォローアップ講座受講

#### 【協議】

- ・だより 167号 構成
- ・SDGs 学生フォーラム (おりがみ) 会場：浦安街づくり活動プラザ
- ・会員交流サロン 12/14
- ・若者事業：スタートアップ会議
- ・拠点活動 (南房総市内) 2月中旬
- ・R8年度事業検討 他

### 1 月度運営会議

1月15日(木) 20:00~22:15

会場：オンライン (Zoom)

#### 【報告】

- ・若者事業：スタートアップ会議 carutena (R6 年度受賞団体) 12/20 イベント開催 報告会 26/2/28
- ・第11次千葉県廃棄物処理計画 (素案) に関する意見募集
- ・ESD for 2030 学び合いプロジェクト 「雑がみ様を救え!!」 12/17 (桑波田見学)
- ・会員交流サロン開催 1/11

#### 【協議】

- ・だより 167号 進捗
- ・SDGs 学生フォーラム (おりがみ中心で企画) 3/21
- ・会員交流サロン開催 2/8
- ・拠点活動 南房総市内で3月中旬に実施する
- ・R8年度事業検討
- ・その他 しろい環境塾ナガエ駆除 2/7 関東ESDフォーラム開催 掛川市+web 1/24 他

## お知らせ

協働のまちづくりセミナー in 葛南地域  
地域住民や若者とつくる  
まちづくりの魅力と可能性を考えよう!

日時：2026年2月17日(火) 午後1時30分~4時30分

場所：サンロード津田沼ビル6階 大会議室

申し込み締め切り：令和8年2月9日(月曜日)

定員：50名(要事前申込、先着順)

対象：協働に関心をお持ちの方、NPO、行政職員 等

主催：千葉県

協力：市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市

講師：武蔵大学社会学部 メディア社会学科

教授 粉川一郎 氏

事例紹介：(特非) アクションポート横浜

代表理事 高城芳之 氏

詳細・申し込みは、千葉県HP

協働のまちづくりセミナー in 葛南地域 で検索

### 地球環境基金ウェビナー

つながる力で生物多様性の価値を高める  
~自然共生サイトを活用した共創の未来~

日時：2026年2月20日(金) 14:00-16:00

開催方法：オンライン(ZOOM) 定員 100名

対象：自然共生サイトを活用した生物多様性保全への

取組に興味があるNPO、企業、自治体、個人

登壇者：高川晋一(NACS-J)、飯島博(アサザ基金)、

関口めぐみ(三井物産株式会社)、(独)環境再生保全

機構・自然共生部

問合せ：(独) 環境再生保全機構 地球環境基金部

申し込み：[https://www.erca.go.jp/jfge/news/form/](https://www.erca.go.jp/jfge/news/form/naturewebinar/input.html)

[naturewebinar/input.html](https://www.erca.go.jp/jfge/news/form/naturewebinar/input.html)

### 「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、

「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

### お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台 21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633 E-mail : info@kanpachiba.com

ホームページ：<https://kanpachiba.com/>

※会費や会員申し込みなどの情報は上記 HPでご確認ください。